



東白川小だより

令和4年7月20日(水) №5

一学期ありがとうございました

校長 桂川 辰也

坂道登下校、水泳、校歌斉唱、大相撲観戦、城東小学校との交流、各種総会の開催など、数年ぶりの活動に多数挑戦した一学期でしたが、その成果を確実に感じています。保護者や地域の皆様には、学校の教育活動に対し、ご理解ご協力をいただきありがとうございました。

7月5日 少年の主張大会より

自分を出し切る姿が素晴らしい！

「まずは一杯 東白川のお茶」

6年 今井遙哉

僕の大好きな東白川村には、誇れる文化がたくさんあります。歌舞伎、稚児、みこし、しめ縄、五加春祭りの杵振りをはじめ、とても興味深いものばかりです。その中でも、僕の心を癒やしてくれる一杯、東白川村の特産品であるお茶について話します。

みなさんは、お茶は好きですか？どれくらい飲みますか？どれくらい知っていますか？僕はもともとお茶が好きでしたが、三年生の時に総合的な学習でお茶について調べる機会があったので、さらに興味をもつことができました。

東白川におけるお茶の発祥の地は、五加大沢の蟠龍寺跡とされています。今から約六百年前、蟠龍寺のお坊さんが、今の京都宇治からお茶の実を持ち帰り、里人に勧めたのが始まりとされています。東白川村は昼と夜の寒暖差が大きいところなので、この厳しい気候に耐え抜いた茶葉はとてと薫り高く、おいしいお茶になるとのことです。

お茶は、茶の木の成長、摘み取り、加工という手順でできあがっていきます。お茶の木は、茶の実を植えて増やすのではなく、「挿し木」という茎の一部を切り取って土に植えて増やしていく方法で育てていくのですが、茶葉が収穫できるようになるまでに約五年かかるそうです。次の摘み取りは、お茶のおいしさを決める大事な作業です。手摘みの場合は「一芯二葉」といって新芽と二、三枚の葉を摘み取ります。生まれたてで、とても柔らかく、紫外線をあまり浴びていないので、渋みのもととなるカテキンが生成されておらず、甘みの強いおいしいお茶になるそうです。しかし、その葉をそのまま急須に入れても味や香りは出ません。最後に熱を加えて水分を取り除きながら細長い形に乾燥させるという加工を通して、おいしいお茶が完成します。今日も東白川村で作られたお茶を飲んできました。やっぱりおいしいです。

しかし、そのお茶の生産量が年々減ってきています。現在、東白川村のお茶農家さんは百人を下回る数になってしまいました。その原因は高齢化やお茶の購入量の減少などで、お茶を作るのをやめてしまう人が増えているからだそうです。そういえば、お茶畑が太陽光発電に変わってしまったところもありました。

そう考えると、この先もどんどん東白川村のお茶の生産量が減ってしまい、いつかは東白川産のお茶がなくなってしまうかもしれません。それはとても残念なことだし、悲しいことです。何としてでも守っていかなければ……。

そこで、今回僕はみなさんと一緒に、東白川産のお茶の宣伝活動に取り組むことを提案します。宣伝といっても、広告を出したり、CMを流したりするという大がかりなものではなく、すぐに誰もが取り組める方法です。それは、まず自分たちが積極的に東白川産のお茶を飲むことです。もともとおいしいお茶なので、味は問題ありません。「いつもの食卓に、休憩の合間に一杯のお茶を飲みましょう。」ということです。また、親戚や知人の方には、お茶をお出しします。そうすれば、お茶のおいしさも伝わりますし、その方々から多くの人にお茶を勧めてもらうきっかけになると思います。これがやがて大きな宣伝になっていくのではないのでしょうか。そうなれば購入量が増え、生産者の方の収入も増え、お茶の産業が盛んになっていくと考えます。

では、ここで少しお茶の紹介をさせていただきます。お茶は加工の仕方によって「緑茶」「ほうじ茶」「紅茶」など様々な種類ができ、その入れ方によって香りや味などの風味も変わります。ドライフルーツなどを入れたフレーバーティーも最近の流行りです。このようにお茶は様々な楽しみ方ができます。ぜひ自分の好みの種類や入れ方を見つけ、みなさんと交流してみたいかたがどうか。ちなみに僕が一番好きなのは温かい緑茶です。お茶の旨みと香りがよくわかり、体とともに心も温まるからです。

さあ、皆さん。あらためてお茶のすばらしさを村民である僕たちが再認識し、より多くの方とお茶を飲みながら会話を楽しんでいきましょう。そのことが、東白川村のお茶産業を活気づけ、これからもずっと大切にされていくのではないのでしょうか。では、今日お帰りになったら、まず一杯のおいしい東白川産のお茶をみなさんと飲んでみてください。

「ぼくの家族」

5年 飯野 一颯

ぼくの家族は三人います。一人目はお父さん、二人目はお母さん、そしてぼくが生まれて三人の家族になりました。今から僕の家族についてしょうかいします。

まずは、お父さんからです。お父さんの働いている所は、コバックという車の修理をする店です。お父さんは、毎日、仕事に出て、食事や洗たくを自分でして会社に出かけています。ぼくが生まれた時、お母さんが病気だったので、ぼくを育てながら、仕事や家事をしなければいけませんでした。ぼくと病気のお母さんのお世話をするのは、とても大変だったと言っていました。

お父さんのしゅみは料理です。お父さんの作る料理は最高においしいです。病気のお母さんとぼくの世話をしながら、ラーメン屋でアルバイトをしていたそうです。好きな動物はねこです。ぼくが東白川に来てからは、お父さんはねこくらしています。そして、ぼくの休みに合わせていろんな場所へ連れて行ってくださるすごくやさしいお父さんです。

一年生の夏休みに、お父さんに大変な心配をかけたことがあります。それは、ぼくがヘルメットをかぶらないで自転車に乗っていたから、頭を地面にぶつけて大けがをしてしまったことです。岐阜の病院で一週間入院をしました。お父さんが毎日、世話をしてくれて、早く退院することができました。だけど、ぼくの頭には「つ」の字のきずが残ってしまいました。ひどく切れてしまって、お父さんには心配をかけてしまいました。それからは、自転車に乗るときには、絶対にヘルメットをかぶるようにしています。

次は、お母さんです。お母さんの好きな食べ物はすしだったそうです。お酒も大好きで、お父さんに似ているなと思いました。出かけることも大好きで、特にお父さんと一緒によく海を見に行っていたそうです。お母さんは、卓球が上手でしたが、料理はお父さんの方が上手でした。

だけど、ぼくが二オの時に、食道がんで死んでしまいました。ぼくは、お母さんに似た顔です。今年のゴールデンウィークに、家に帰った時にアルバムを見ていて、そう思いました。ぼくは、お母さんが今、いてくれたらなあと思って悲しくなります。ぼくは、弟もほしかったです。

お母さんは、かんこうへんや食道がんと闘いながらも、ぼくを大切に育ててくれました。

だから、ぼくは、お父さんのためにも、自分のためにも、東白川のおばあちゃんの家に行ってきました。お父さんとは、はなれて暮らしているけれど、ぼくは、お母さんの分まで、がんばって働いているお父さんに感謝をしています。

今、ぼくは、東白川のおばあちゃんの家で、お兄ちゃん、妹、弟といっしょに暮らしています。お兄ちゃんは、ぼくが東白川に来てから、すぐに仲良しになりました。妹や弟は、ものすごくかわいいです。お手伝いに来てくれるおばあちゃん達もやさしいです。おばあちゃんの家は、早ね、早起きです。メディアもねる一時間前の7時には、終わらなければいけません。きびしいと思うこともあったけど、おばあちゃんは、みんなを大切に育ててくれます。長い休みには、遊びに連れて行ってくれたり、みんなのために美味しいごはんをつくってくれたりする、すごくやさしいおばあちゃんです。

ぼくが東白川にいる間に、お父さんは正社員になれたそうです。だから、ぼくのためにがんばってくれているお父さんに負けないように、ぼくも東白川で一先けん命、運動や勉強をがんばりたいです。そして、いつか、ぼくも大きくなったら、家族を大切にしてくれるお父さんのような家庭をつくっていきたいです。



◎朝日小学生新聞をご寄贈いただきました

本年度も「株式会社 立保」様より、朝日小学生新聞をご寄贈いただいております。朝日小学生新聞は、毎週学校に届けられ、現在の社会の様子や今話題になっていること等を、小学生にも分かりやすい表現で書かれている新聞です。図書室、5・6年教室の間にコーナーを設け、子どもたちの知識を深め興味関心を高めることに活用させていただいております。ありがとうございます。